



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン・サウジアラビア：両国間の関係 (1月24-25日付イラン現地報道)

1. 1月24 - 25日、サウジアラビアのバンドル・スルターン国家安全保障評議会議長（元駐米大使）がイランを訪問し、24日にラリジャニ SNSC 書記、25日にはハメネイ最高指導者と会談した。ラリジャニ SNSC 書記との会談では二国間関係及びレバノンでの機微な現状を含む中東地域情勢について協議し、双方はレバノンの諸勢力が受け入れ可能で、且つ地域国民の利益となるような解決策を実現することの必要性について強調した。
2. バンドル議長とラリジャニ書記の共同記者会見（25日、要旨のみ）
 - (1) ラリジャニ書記の発言：
 - (イ) イラクで米国により拘束されたイラン人外交官問題は真剣にフォローしている。本件の早期解決と同外交官の解放に向けて、現在継続的な努力が行われている。マールキ・イラク首相とイラク政府による本件に関する協力は評価している。
 - (ロ) (国連安保理での核問題について) イランによる核の道のりは明白な道のりである。イランは自らの道のりを IAEA の監視下で継続する。協議・対話も同時に行われている。交渉のテーブルから去った者達は、交渉のテーブルに戻らねばならない。
 - (ハ) (IAEA 査察官の入国拒否について) これは保障措置協定に基づいたイランの権利である。IAEA 査察官のうち、一部を受け入れ、一部を受け入れないのは、イラン及び全ての国の権利である。本件は現在に限らず、これまでに何度も起きており、メディアは本件に過剰なセンシティブティを示さないで欲しい。
 - (ニ) (サウジアラビアとの会談について) 各国は当然ながら国益に基づき意思決定を下す。イランとサウジアラビアは多くの利益を共有している。サウジは地域内の重要な国であり、我々はサウジと幾つかの素晴らしい共通見解を有している。両国は宗派の相違が拡大されるべきでないと考えており、又、シーア派とスンナ派はイスラムの兄弟的宗派であると信じている。イランとサウジは共通の協力分野で、より多くの協力関係を持つことが出来る。
 - (ホ) (米国のイラン軍事攻撃の噂について) これは一種の心理戦である。イラン軍は如何なる措置に対しても対応する用意が完全に出来ている。
 - (2) バンドル議長の発言
 - (イ) 我々は、イランの平和的核利用の権利を確認する。GCC 諸国も先の会合で核エネルギーの平和利用を議論すべきと決定した。機微な技術については、その安全保障問題についても考慮すべきなのは当然である。本件が機微であることより、あまり多く

語らない方が良く、核の交渉は穏やか且つ合理主義的に実施されなければならない。
この議論が平和的解決策に帰着することを期待する。

- (ロ) イランはイスラム世界での大国である。今回、イラン政府高官との協議で、アラブ世界及びイスラム世界に存在する問題を協議した。イランとサウジの両国が、国民の利益を達成する方向に動くようにし、イスラム共同体の利益以外の為には、如何なるステップも踏まないことを期待する。
- (ハ) ハメネイ最高指導者との会談では、先日、ラリジャニ書記がアブドラ・サウジ国王に持参したメッセージへの回答として、サウジ国王のメッセージをハメネイ最高指導者に手交した。サウジ国王のメッセージでは、イスラム共同体の団結と連携の必要性が強調されており、イスラム世界において敵による騒乱の発生を予防することにも触れられている。
- (ニ) 敵はイスラム教徒間でシーア派とスンナ派間に争いを引き起こそうとしている。我々は皆一つの神を信じており、イスラム教預言者の指示に追従している。我々の行動の基礎はコーランであり、イスラム教徒間に争いが勃発することを許してはならない。イランとサウジの指導者は、地域における平和と安定の確立を強調している。レバノンやイラクなど、地域の中でも多くの問題に直面している場所に、安定と治安が確立することは各国の利益にもなるし、イスラム教徒とムスリムの利益にもなる。サウジとイラン両国は、イスラム教徒の団結と地域における団結の達成に関心を抱いており、皆がこの団結と連帯を維持するよう努力しなければならないと強調している。
- (ホ) (中東地域での外国の干渉について) 地域各国の平和と団結を乱そうとする外国による試みが打ち切られることを望む。イランはイスラム化の以前から大国であったが、イスラム化以降、更に大きな大国となった。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799